

## 第2回市立秋田総合病院病院建設検討委員会報告

1 日時 平成27年6月17日(水) 15:00～15:40

2 場所 理事長室

3 出席者

小松理事長(進行) 伊藤病院長 松尾副院長 円山副院長 中川内科診療部長  
佐藤外科診療部長 吹谷看護部長 南雲薬剤部長 本間事務局長  
糟谷事務局次長

福祉総務課(オブザーバー) 眞崎参事、西崎主査

経営企画室(庶務) 伊東室長、伊藤室長補佐

4 議題

(1) 医療を取り巻く環境変化について

(2) 将来患者数の予測について

(3) その他

5 審議経過

事務局

ただいまから第2回市立秋田総合病院病院建設検討委員会を開会する。  
会の進行は委員会設置要綱の定めより理事長にお願いする。

委員長

これより病院病院建設検討委員会を開催する。  
では医療を取り巻く環境変化について説明をお願いします。

事務局

(資料1に基づき説明)

委員長

今の説明について、何か質問等はないか。

(特に質疑等なし)

次に将来患者数の予測について説明をお願いします。

事務局

(資料2に基づき説明)

委員長

今の説明について、何か質問等はないか。

委員

川尻・八橋など近隣の人口推計の資料は出せるのか。10年後、20年後は

よいかもしれないが、30年後までを考えると半分程度慢性期にしておいた方がよいかもしれない。急性期だけでは難しい気がする。病院単体で考えるのではなく、県や市全体でどうしていくか、検討することはないのか。

委員長 地域医療構想がそれにあたると思う。

委員 病院建替についても市内の病院がそれぞれ新築するのではなく、合併・再編なども考えないと30年先は病院として体をなさないのではないか。

委員長 確かにあると思う。統合再編や廃止なども考えられるが、この委員会で検討するには話題が大きすぎるかもしれない。もちろんそうしたことを考慮しながらも、今、置かれた状況と今後の医療環境の変化を分析することとなるが、いろいろな方向に向かう可能性はある。従来のようにここで建て替えれば良いという考え方だけではうまくいかないと思う。

委員 地区ごとの人口予測を出せないことはないが、国立人口問題研究所の数値と違ってくことやあまり小さいセグメントだと誤差が相当大きくなる可能性がある。参考値として南西部全体でどれくらいといった数値となる。新屋地区は全体的に人口が少なかったため、総合病院が建たなかった所であり、当院も元々は伝染病棟として始まり、その当時はここもどちらかと言えば僻地だった。それが秋田国体を期に県庁市役所が今の場所に移ったため、一気に開発が進み中心地になった経緯がある。ここから市立病院がなくなると新屋地区等の方は非常に困ると思う。

委員 当院の位置は微妙な所にあり、中通病院と協力できればちょうど良いかも知れないが、両病院とも文化が異なるので難しいと思う。これからの高齢化の進行に際し、高齢者の救急対応と介護までどうやって結びつけるかが大切である。

委員長 案件は以上だが、事務局からないか。

事務局 次回委員会は、7月の第2回目の管理会議、7月22日（水）を予定している。

委員長 これで第2回市立秋田総合病院病院建設検討委員会を終了する。

以上